

特集

親しみやすい天文イベントを目指して

～過去近年のイベントポスター展示～

瀧本 麻須美（坂下星見の会）

1. はじめに

今回の発表は、ポスターセッションでの参加。時間の関係上なかなかじっくりとお話も出来ずでしたので、展示したイベントポスター（図 6、7、8、10 参照）や、同展示の星座ランプシェードの工作類（図 1 参照）の話もまぜ、展示の補助説明として書かせていただくことにします。発表側は、賑やかさも加えたく実際にイベント時に着用した衣装で対応させていただきました（図 2 参照）。



図 1 星座ランプシェード
左が筒型、右が五角形。



図 2 ポスターセッション場面

2. 坂下星見の会について

2002 年より発足の「坂下星見の会」（以後『当会』と記載）は、今年で 18 年目を迎える。発足 5 年ほど経った間もない頃に某コラムに活動を発信することになり、その時にうたった文句が下記である。

=====

☆☆☆ 天の川 見にきませんか？ ☆☆☆

『いにしへの遠くの光、舞い降りる・・・』

何万光年の彼方よりやっと届いた星々の光、今見ている星の光は、10 年前 100 年前中には、私たち人類が存在する前からの光もあるのです。そう、宇宙は過去を探るちょっとしたタイムマシン・・・こんな不思議を思いながら星空を仰いでみませんか・・・

=====

今読むと、知識、技術は後回し、星・宇宙への想い先行で活動を始めた経緯を思い出す。

当会が位置する三重県亀山市関町（坂下地区）は、全国からすれば、そんなに暗い星空ではないのだが、市街地では見る事が難しい天の川が、この活動拠点となっている坂下地区では、それなりに見える。鈴鹿山脈の麓とあって光害が少なく、月明りがない夜空では見えることもあり、そんなきっかけの呼び掛け文で、当会や拠点についてのアピールを行っていた。

活動を始めて約 8 年が経過したあたり、天文台建設の話が耳に入る。自分たちでは到底手の届かない物だけに、活動を続けてきた意義があったと更に今後への期待が膨らんだ。

そして、2010 年に、その話は現実となり、市の施設として天文台「童夢」が建設され、4 月 1 日より運営開始となった。

天体観察、天文関連イベントなどに活用、現在に至っている（図3参照）。

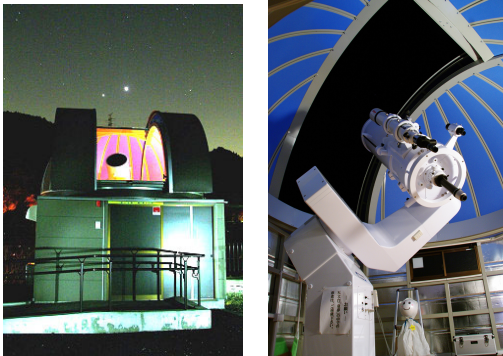


図3 亀山市天文台「童夢」
左は外観、右は内観。

設置された鏡筒は口径400mmのカセグレイン反射望遠鏡（サブスコープ115mm屈折望遠鏡）。他所の天文台と比べるとそんなに大きくはないが、元々は、コミュニティ天文台としての位置づけで建てられた施設、自分たちが携わる規模としては充分である。

一般の人が利用するスタイルは、大きく分けて2種。月一回の開放デー（無料）と、利用者側が希望日の申請をして利用する形である（現在、小学生以上1人100円）。

私たちは、この天文台の運営スタッフとしての役割も兼ね、利活用に努めている。

この天文台「童夢」のある施設の敷地内（図4参照）は、キャンプや研修など宿泊もできるとあって、特に夏休みの利用が多くなる。



図4 鈴鹿峠自然の家

そのような中ではあるが、天文台利用にあたっては月一回の開放デーも定着し、何家族かは、星を見に来ることを楽しみに訪れてくれている。天文台が建設されたとはいえ、興味を持って見に来てくれる賑わいも、根っから好きでないと、そうそう来てもらえるものでもない。それは、天文台が無かった時からの課題であり、何をしたら足を運んでくれるだろうか…イベントとして行う時などは、おまけで釣る訳ではないが、天文に関連した内容、若しくは、子ども向き（親子向き）な内容など盛り込み、集客の相乗効果を見込んでいる。予約を取る訳でもないのに、蓋を開けてみないと分からないが、天文台に隣設している施設（図5参照）のホールが多目的に利用でき、その幅を広げていると言える。

晴れるに越したことはないが、雨天 or 曇天になってしまっても、何らかでカバーできるというのはありがたい。



図5 鈴鹿馬子倶会館

3. 来場者に興味を持ってもらう工夫 （2018年度：春・夏・秋のイベント）

今年度の春は、天体観察の他に移動プラネタリウムと、子ども舞台など組み合わせ、多方面からの興味付けも見込む内容に（図6参照）。その年々によっては、星関連グッズなど、工作タイムを設け、お土産になる物を取り入れるなどした（図1参照）。

このようなグッズは、材料費など掛かるため、そのあたりは参加者に賄ってもらっている。

る。出来上がりはお土産として、また自宅でも飾ってもらえる物になるよう工夫している。



図6 ポスター（春の星空観察会）



図7 ポスター（ペルセウス座流星群）

望遠鏡で見る天体観察もありだが、寝転んで星空全体を見るスタイルで行う流れ星観察会（図7参照）今年度の夏は、プロジェクシ

ョンマッピングも取り入れ集客要素を考えてみた。近年、流行りの建物への投影であるが、星に関する内容を入れ天文関連物にした。

その甲斐あってか、天候が怪しかった分、来場者数の心配もしたが、100名は超えていたのだろうか・・・用意した観覧用のスペースは、早々とイッパイになり興味度の高さがうかがえた。



図8 ポスター（星まつり）



図9 ペットキャンドルのタペ

活動当初から行っていた「星まつり」(図8、9参照)。このイベントは、学習要素よりもお祭り要素が多い。天体観察は勿論だが、コンサートを行ったり、施設の庭いっぱいにキャ

ンドルを灯したり・・・幻想的な空間の演出を行っている。初めに行ったのは、夏休み。しかし準備に、そこそこ時間が掛かる。暑いさ中に準備するのも諸々な限界があり、数年前から体力も考慮し秋へと移行した。秋の夜長を楽しむべく、落ち着いた雰囲気の中で行っている。その時々に合わせて内容も変えて行く必要があるのでは？と思う。

4. 自分磨き(内側向上)・・・専門的知識の受講

宮沢賢治 大西浩次のとびつき講座!!

「銀河鉄道の夜」を読み解く!

今回の企画は、ロマンあふれる宮沢賢治「銀河鉄道の夜」と銀河系天文学との関係についてだ! 当時、賢治が見上げていた天の川... さて、どのような知識で思い描いていたのだろうか? 当時の天文学と彼の思い描いた世界を視ながら、その後の天文学の発展から見える「銀河鉄道の夜」の新しい側面を読み解きます☆

とく: 2018年11月10日(土)
16:00~19:30
とく: 鈴鹿馬子吟会館ホール
(三重県亀山市関町2-54)

講師: 大西浩次
後援: 三重県教育委員会
企画: 企画人 関野たけし

タイムテーブル
15:30 開場
16:00 開演「銀河鉄道の夜」を読み解く!
17:00 大西浩次「銀河」講演会
18:15 質疑応答
18:30 サイエンスカフェ(付属)「銀河」講演会について
19:30 終了

※このイベントは、無料で参加できますが、申し込みが必要です(参加費500円)。
イベントに参加する場合は、申し込みが必要です。申し込みは、このイベントの申し込みが必要です。
申し込みは、このイベントの申し込みが必要です。申し込みは、このイベントの申し込みが必要です。

図10 チラシ(天文愛好家向けの講座)

例年行うイベントは、親子対象が多いのだが、メンバーからの提案のもと、今年は、天文愛好家(主に大人)を対象とした講座も行った(図10参照)。いつもは提供する側であるが、受講側で学習するのも新鮮であった。

今後とも何らかで、変化のある内容を試みるのも面白そうである。

5. 近年の動向

数年前の天文台建設と同時期に、移動プラネタリウム(図11参照)も使えるようにな

り。拠点で活動の他、出前講座(学校授業)などにも依頼があれば、これにて対応。現在「移動プラネタリウムネットワーク」に仲間入り。他所から得る情報を基に、何らかの策を練っていかうと考えている。

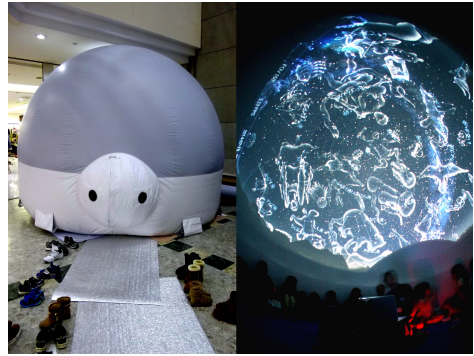


図11 「星たまご」プラネタリウム

その他の活動としては、みえ星空環境案内人「星のソムリエ®」講座のサポート。

環境学習としてエコフェアへの出展、そしてJAXA コズミックカレッジの開催など、広範囲に携わっている。

6. おわりに

星好きな仲間内だけで、宇宙(星空)の魅力を語り合うのも良いが、もっと多くの人達にも、この素晴らしさを知ってほしい。手探りでありながらも楽しく参加してもらえるような天文普及をこれからも進めて行きたいと考えている。



瀧本 麻須美